

こしば新聞

令和4年7月14日(木)49号



【お問い合わせ先】

自由民主党
東京都品川区第三十四支部
〒140-0014

品川区大井 5-6-2-101

☎ 090-6106-2272

Fax 03-6303-7037

※ご希望の方には新聞をお届け致しますので、ご連絡願います。



ご相談や区政へ
のご意見をお聞
かせ下さい。
☎ ゼビラインも

参院選終わり

7月10日、18日間に及んだ参議院議員選挙の投票日でした。今回の参議院議員選挙、これまでに以上に選挙で選ばれた議員として、民主主義の根幹が身に染み込んだ選挙でした。2日前にテロリストによって凶弾に倒れた安倍晋三元総理のことです。戦前では政治テロの犠牲によって、伊藤博文初代総理をはじめ、大久保利通、犬養毅、高橋是清など複数の政治家、総理大臣経験者が凶弾に倒れました。戦後は、社会党の浅沼稻次郎委員長が刺殺されるなどしましたが、元総理が凶弾に倒れることはありませんでした。当日は私も、選挙のお願いで電話をかけている最中に突然、

Twitterの情報で知りました。このニュースを見て、その後に入ってきた映像を見て安倍元総理は最後の最後まで有権者の目線に立って、候補者の応援をされていたことが分かりました。なぜ、あのような全方位にわたって警戒しなければならぬ演説場所に安倍元総理を立たせてしまったのか、なぜ一発目の銃声の後、覆いかぶさらなかったのか、突き飛ばすだけでも助かったのではないかと、なぜなぜを繰り返しました。私は政治家の武器は刀である人から教わりました。幕末、およそ3千人の下級武士が刀によって江戸時代に終止符を打ち、明治維新を成し遂げました。

現代では勿論刀は使えませんが、魂をこめていくのか、魂の言葉が現実になると教わりました。かつては武器(刀)が混沌とした社会を正していく、時として有効であった時代がありました。しかし現代は違います。言葉こそが社会を変えていく、正していく有効性をもった武器であると考えます。だからこそ、政治家にとっての言葉は武器であると考えられるわけですが、その言葉を発する政治家の命をテロリストが奪ってしまったのです。それも安倍元総理の言葉がどれだけ日本にとって、世界にとって有効性をもっていたのか、言葉の有効性を無にしてしまったテロリストには激しい憤りを覚えました。

首都直下地震

先般、東京都は10年ぶりに都心南部直下地震における被害想定の見直しを行いました。

先日、行われました災害環境特別委員会での報告を受け、まして衝撃を受けました。

「被害想定は品川区の南部です」

まさかと思いましたが、品川区は一年を通じて町会や自治会などで防災訓練を行い、また各地域センターでも大規模な防災訓練、避難所訓練を行ってきました。それでも、課題はあります。地域間によって訓練の練度が異なっていますので地域間にはばらつきがあります。これまで防災訓練と言えば初期消火を目的とした

ものが主流でしたが、最近では被災した後の避難所までの避難や被災者の把握を目的とした訓練も町会単位で行っているところも実際にあります。そういう中で二次被害の影響を受ける地域が出てこないようにすることが必要と考えます。全体的にその被害をなくしていくには、すべての町会でこれまでの訓練を見直したり、時にはこれまでは違った訓練を行うことで総合的な練度を高めていくべきです。地域の垣根を越えて、特色ある防災訓練を行う町会を他の地域の町会が見学したり、意見を聴くだけでも防災訓練が変化をもたらすと考えます。裏面は災害時における品川区の被害想定資料です。

9月30日、災害環境特別
委員会の資料を抜粋

品川区の被害想定

別紙

品川区における主な想定の変更点

(1) 直下型地震

区分	平成24年想定	令和4年想定	差
全般			
想定地震	東京湾北部地震	都心南部直下地震	
区内最大震度	震度6弱～7	震度6弱～7	
夜間人口	365,302人	422,488人	+57,186人
死者数	779人	288人	▲491人
人的被害			
負傷者数	8,016人	4,492人	▲3,524人
建物被害			
ゆれ等による全壊	5,281棟	2,892棟	▲2,389棟
火災による焼失	21,569棟	6,286棟	▲15,283棟
避難			
避難所避難者	119,932人	87,418人	▲32,514人
帰宅困難者数	179,084人	233,316人	+54,232人
電力停電率	47.4%	21.3%	▲26.1ポイント
上水道断水率	46.2%	30.2%	▲16ポイント
下水道被害率	28.7%	6.4%	▲22.3ポイント

(2) 海溝型地震

区分	平成24年想定	令和4年想定	差
全般			
想定地震	元禄型関東地震	南海トラフ巨大地震	
区内最大震度	震度6弱～7	震度5弱・5強	
被害			
最大津波高	2.61m	2.38m	▲0.23m

2 品川区の被害想定の特徴

(1) 直下型地震

- ・震度別面積率は、震度6弱が8.4%、6強が91.0%、震度7が0.6%であり、区内の多くの地区は震度6強である。
- ・人的被害では、死者数は288人であり、火災（160人）が最も多く、次に揺れによる建物倒壊（101人）となっている。
- ・負傷者数は、4,492人であり、揺れによる建物倒壊（3,007人）が最も多く、次いで火災（675人）、プロック塀等の倒壊（482人）となっている。
- ・物的被害では、建物の全壊・焼失が9,178棟、半壊が6,038棟となっており、火災による被害が多い。
- ・避難所避難者数は、発災1日後が75,721人、4日から1週間後が最大となり87,418人、1箇月後が24,995人となる想定である。
- ・帰宅困難者は、233,316人と想定されている。（詳細については、後日、都から示される予定）
- ・インフラ被害のうち、電力停電率および下水道被害率については、平成24年想定よりも大きく改善している。

(2) 海溝型地震

- ・南海トラフ巨大地震による津波では、地震発生後、約3時間20分後に最大津波高（2.38m）が到達する。

3 被害想定の見直しを受けた区の取組

- ・今後進められる東京都地域防災計画の修正に合わせ、令和5年度に品川区地域防災計画を修正する方向で検討を進める。
- ・今回の想定よりもさらに被害を軽減していくための施策を、都と連携し今後とも推進していく。

